

# 「 さ さ え 」

2019年 7月発行 情報誌 第68号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail [npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp](mailto:npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp)

新 URL <http://npofukusiyougu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目13-5

**福祉用具はあなたの自立をささえます。**

**あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。**

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第1号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成27年より、充電式も発売開始。【発売元】キヨタ(株)

これまで、NPO福祉用具ネットが関わった  
主な開発協力品 (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ  
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人

**NPO福祉用具ネット**

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

# 福祉機器開発等支援事業から生まれる 新しい福祉用具（第2回）

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

## 要望とニーズの違いはどこにあるか

では、要望が真の（本質的な）ニーズとなるにはどのような点を考えるべきでしょうか。

例えば「走行時に振動を吸収する車いすが欲しい」と考えている施設がありました。しかし、ショックアブソーバー付の車いすは、70年前に製品化されました。第2次大戦後の傷痍軍人箱根療養所向けです。

じっくり話を聞いてみると、走行時に、着座している利用者の頭がフラつき、気分を悪くするという。だから振動しないようにしてほしいという。そこで、再現してもらいました。そこから判ることは、床の「うねり」が原因でした。床を真っ平らになるようにリフォームすれば、この職員さんだけでなく他の人も満足する解決策になります。この課題はこの施設特有なのかもしれません。

もしも要望される「ウォンツ」のままを受け入れ、車いすの車軸部分にスプリングコイルやエアードンパーのような傾動抑制機構を取り入れて商品化しても、おそらくその施設が購入してくれるだけだったかも知れません。



70年前の車いすはスプリング付き

上の写真は、70年位前の箱根式車いすです。イギリスの車いす技術を導入して、日本向けに改良されたもので、車輪と座面との間に板状のバネが取り付けられています。当時は路面状態が凸凹で、いたるところに段差があったため、凸凹の石畳でも有効に使えたのでしよう。

しかし、近年の車いすには、スプリングは付いてい

ません。施設内では、バリアフリーで床も極めて平坦なため、バネの吸収力の必要性を認めないからでしょう。

しかしあるメーカーは、米国製のダブルウィッシュボーン式振動吸収機能付き車いす「SABER w/Air ride System」を紹介しております。外出時の悪路の振動を緩和して乗り心地を追求しているようです。



SABER w/Air ride System

このようなことから、現場の人が訴える「こんなものが欲しい」という要望を、そのまま受け入れ商品化を目指すのではなく、その真意をくみ取り現状の商品との関係を見極め、この要望をきっかけに真に求められるニーズを追求する態度が必要であると思われました。

## 要望は判り易いが解決手段が複雑

こんな例もありました。

特殊浴槽での入浴時に、ストレッチャーを横付けに



する際に、ストレッチャーが浴槽の側面に当り、傷を付けるばかりでなく、ストレッチャー上に横たわっている人に衝撃による不安感を与えることがあり、色々試行錯誤して悩んだ末、前頁の写真のように側面にスポンジを張り付けたとのことでした。

特殊浴槽は、1台200万円～1,600万円位の高価なもので、年間売上（メーカー出荷価格 225億円（2016年実績））のように大きな市場規模です。施設が大切に扱うことは十分理解できます。

「自分で張り付けた割にはきれいでしょう？」

現物を見ても、確かにきれいに仕上がっていました。大型船舶が岸壁に接岸する際も、同様に両者の間にゴム製の緩衝防舷体を用います。まさに同じ考え



でしょう。

（出典：<https://blogs.yahoo.co.jp/nkiipen/34520913.html>）

しかし施設の現物は、張り付けたスポンジのあちこちに破損部分があり、浴槽の側面を傷つけ、繰り返しにより破損させる恐れも感じ取れます。それよりも憂慮したのは、要介護者の不安感です。

一応、スポンジでプロテクトされていますが、厚さが薄いために十分な緩衝力は期待できないと思われます。

逆にスポンジを厚くすると、防損効果は期待できますが、ストレッチャーが浴槽に十分接近できず、移乗に支障が出るかもしれません。

しかし、もっと憂慮したのは、スポンジの素性です。貼られていたスポンジは、連通気泡型のため、水気を吸い込みやすく、また乾燥しにくく、黒カビの発生に加え雑菌の繁殖を誘発し、衛生的に不安のあるものと思われます。

もし水回りでスポンジ状のものを使うなら独立気泡



型の方が安心できるのではないのでしょうか。

ところが独

立気泡型は、身近なところでは手に入り難しいものです。折角の対策が、新たな弊害を生む場合も想定されま

### 要望をニーズまでフラッシュアップ

要望は「ぶつからないようにしてほしい。」という判り易いテーマですが、簡単には解決しないテーマでしょう。

その後、更に多くの施設に同様の、傷付き、衝撃緩和対策の必要性のヒアリングを進めていくと、沢山の施設が同じ悩みを抱えていることが判りました。

そこで特許を調査してみますと2003年ごろからストレッチャー側に衝突緩和用のローラを付けているものが提案されており、一部のメーカーでは実際に商品化していることが判りました。

しかし、他のメーカーでは対策を行っておりません。要望が多いこと、一部メーカーでは対策済みであることなどを勘案すると、ニーズはしっかりしているといえましょう。

そこで、未対策ストレッチャー向けに、後付けのアタッチメント型緩衝体を商品化すれば、注目される可能性は高いと思われます。

このように一部から提案された要望を、市場商品、知的財産権などを十分調査することにより、「要望」の形がはっきりしたものに見えてきます。これがニーズです。

しかし、このようなテーマは、浴槽とストレッチャーの関係（ストレッチャーの形状やアプローチの仕方）がありますので、思い込みの改善では事故を招きかねません。

特殊浴槽メーカーに打診してみる必要があります。

### 法的規制も考慮して

ニーズを確認する際には、法的規制も考慮する必要があります。

「こんなものが欲しい」と思っても、なぜそのような商品が存在しないのかもしっかり調査する必要があります。実はその裏には、法的規制が存在する場合があります。危険が予測されるようなものは、事故を未然に防止するために規制されていることがあります。

また、使用方法が法的に制限されている場合もあります。

そのような時は、要望はあっても商品化には大きなハードルとして法律が立ち上がり、開発は慎重にならざるを得ません。特に身体を対象とする機器類は、この規制が多くなります。

福祉・介護の分野では、機器に不都合があっても自分で危険を回避することができない方が居られます。このために法的規制や業界自主基準などが存在します。

（次号へ続きます）

# 『抱え上げない介護技術』の技術認定チェックを終えて

NPO福祉用具ネット事務局長 大山美智江



抱え上げない看護・介護を当たり前にすることを目指し、九州の福岡、佐賀、熊本の『なちゅほ』のメンバーや大分県の仲間と共に取り組みをスタートしたのは平成29年10月でした。100人のプロジェクトメンバーを結成し、コツコツと定期的に技術勉強会を開催してきました。開催場所はNPOだけでなく、北九州地域、熊本県や大分県、佐賀県などでも行いました。

あれから1年9か月・・・。

技術認定チェックは、抱え上げない介護技術を広めるために職場や地域で活動するリーダーを養成することが目的です。腰を痛めないための身体の動き方や福祉用具を活用した介護者と介護を受ける方の双方にやさしい技術を学び、その基本技術を仲間や家族に伝えるためのプレゼンテーション技術を学びます。その内容は10項目になります。技術認定チェックは、1回目は、30年の9月、2回目は平成31年4月末に実施しました。

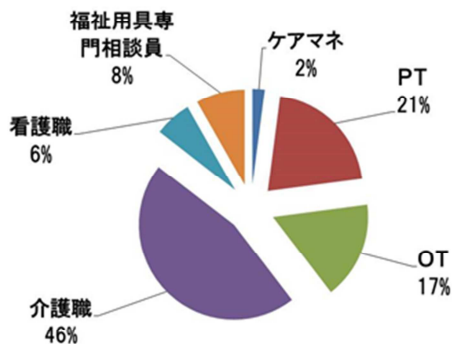
尚、この技術のチェック項目や技術指導は高知県の（一社）ナチュラルハートフルケアネットワークの全面的なご協力とご支援のお陰で実現しています。

## これまでの技術認定チェックの結果

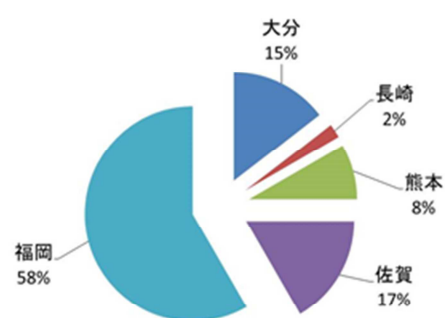
第1回目の合格者20名、第2回目の合格者28名 合計48名が認定され、その職種や地域の内訳は以下の通りです。

次のページに第2回目の認定試験に挑戦された皆様の感想を掲載しています。  
是非、読んでいただきたいと思います。

48名の技術認定チェック合格者の職種



48名の地域別の内訳



## 4月28日・29日技術認定挑戦者の皆様からいただいた感想（一部ご紹介）

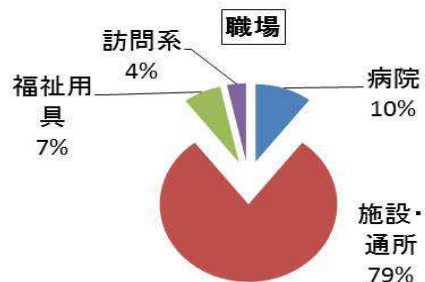
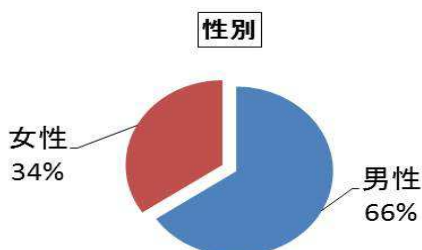
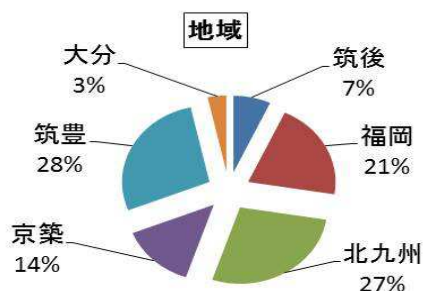
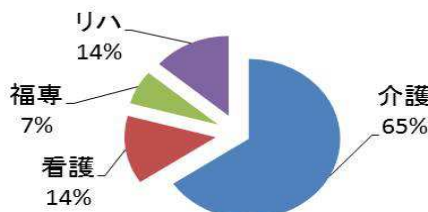
- ① 今回の研修会に参加させていただき、自分自身できない所を改めて知る事ができました。また、同じ目的に向かって頑張っている仲間を知り、仲間作りもできました。参加させていただきありがとうございました。（介護職）
- ② 知る、技術を身につける、人に伝えることを同時にするのは大変で不安でしたが、皆さんのおかげで細かく教えていただき無事合格することができて良かったです。ここで学んだ事を職場に持ち帰り、現場で試していきたいと思います。（介護職）
- ③ 大変でしたが今まで学んだ知識と技術とをとりあえず一つのまとめとして区切りをつけられたことに安心できました。今後はタスクとして、まだまだ技術面や知識と共に磨きをかけていきたいと感じました。（介護職）
- ④ 最初は難しい事ばかりで自信がありませんでしたが、タスクの方達がわかるまで丁寧に教えてくれて少しずつ技術が身について自信に繋がりました。認定チェックも緊張している私をリラックスさせてくれたり、とても助かりました。研修で学んだ事や身につけたことが無駄にならないように、また忘れないように自学をしたり、もっとスキルアップをしたりしていきたいと思います。人にどう伝えていくかを今後は学んでいきたいです。（介護職）
- ⑤ 準備して下さった事務局や講師、タスクの方々々が準備や学習会などに（受講生より）非常に多くの時間をあてて下さっていたことに、とても感謝しています。それでも理解して、自分の体におとしこむのは、なかなか難しく感じました。その経験（学習者の困難感と伝える側の根気）を忘れず、職場での取り組みを行っていききたいと思います。
- ⑥ まだ、自信がなく（小さい声が）さらに小さくなりがちですが、どのチェッカーの方からもいただいた助言「目的は伝えるという事」を意識し、説明しようとする方たちに視線を合わせるよう心がけたいと思います。そして、伝えるための技術（介助、伝え方）をステップアップしていくことができるよう努力します。本当にありがとうございました。（作業療法士）
- ⑦ 2日間、認定チェックを受けさせて頂きましたが、実技面、伝える力どちらも未熟であり、足りない言葉がたくさんあったことに気づきました。身体の使い方1つひとつでも、それに関わる内容を伝えるための話し方、流れ、説得力など、理解したうえで、伝えていくことが大切だと感じました。また、対象者の方に対し、安全なケアを行うための機器、福祉用具、身体の使い方など、正しく安全に使っていけるよう、伝えていけるよう、今後の知識や技術面も勉強を続けたいと思います。（理学療法士）
- ⑧ 2日間、認定チェックを受け、自身の身体の動かし方（使い方）が上手くできなかった所やまた私の膝が屈曲するにつれ、内側に入り身体がねじれている様にみえると教えていただきました。注意する点を教えて頂くことで、具体的にどうしたらいいのかわかる事ができました。今後の私の課題（できなかった所、難しかった所）にし、取り組んでいきたいと思います。（理学療法士）
- ⑨ 技術認定試験を受けて、技術を人に伝える事の難しさを実感しました。頭では分かっていることが、出来ないはがゆさもあり、大変でしたが、改めてやり方を正しく理解するための機会となりました。これから施設で技術を伝えていくことを続けていきます。（作業療法士）
- ⑩ 大変勉強になりました。緊張している私に優しく声をかけて下さり緊張をほぐして下さりどうか2日間を終わる事ができました。チェッカーの皆さんの的確なアドバイスが多くあり、多くを学ぶ事ができました。また、評価では、良かった点から言われてから注意点を言われていました。自施設でノーリフトを浸透させるために注意点だけを言うのではなく、良い点を伝え職員の意識を変えていきます。ありがとうございました。（介護職）
- ⑪ 項目ごとに細かなフィードバックを頂き、学び多き認定となりました。動作一つ一つの意味（なぜこうするのか？）を教えてもらいました。すぐに教えるのではなく、一旦考えさせてから・・・気付きを待つて下さる時間も良かったです。練習中にも気付くことの出来ていなかった細かな部分について知ることができたので、伝える側として多くの学びとなりました。チェッカーの方々、他、フォローの方々、関係者の方々、細かな配慮、優しいお声かけに感謝で一杯です。本当にお世話になりました。皆様のようにになれるように学びを深めて多くの方々に伝えられるように頑張ります。（生活相談員）

- ⑫ 今回認定チェックを受けて説明をしながら体を動かすことの難しさを感じました。どうしても中腰の姿勢をとってしまっていたので、普段の業務から注意をしていきたいと思います。(作業療法士)
- ⑬ 皆さんの手助けのおかげで無事合格できました。ありがとうございます。今後、地域に帰り、少しずつ仲間作りやノーリフティングケアを行う施設が増えていけば良いなと思います。(福祉用具専門相談員)
- ⑭ 自分のあいまいな部分やくせがよく分かりました。指摘していただいた部分をさらに勉強するとともにできた部分を復習したいと思います。(理学療法士)
- ⑮ 認定チェックを受ける事で、できていない点が明確になり本当に受けて良かったと思います。合格はさせて頂いたものの、本当はまだまだで、これからまたしっかり勉強し、日々実践していかなければと強く思います。人に伝えるということの難しさ・・・改めて感じました。知識・技術・感覚がまだ自分のものになっていない部分は特に自信がなく、一段とモゴモゴした喋りになってしまうので、少しずつでも自信を持って伝えられるものを増やしていこうと思います。(看護師)
- ⑯ 技術認定チェックへの挑戦ということですが、細かな部分に多く気づき、理解が深まり実り多い研修会になりました。今回の様に必死で受講すると疲れはしますが、時間をとても有意義に使えたと感謝しています。これからも地域に貢献できるように努力します。  
(介護職)
- ⑰ 技術に自信が持てない中、今回のような機会を設けていただき非常にありがたく思っています。今回、身につけたものを基盤にさらに積み重ねていければと思っています。  
(福祉用具専門相談員)
- ⑱ 今回、さまざまな指導を頂いたおかげで、今まで自分が理解していたつもりになっていたことが多くあったことに気づけました。理解度を再度確認できる有意義な時間でした。ありがとうございました。  
(理学療法士)
- ⑲ 自分の体の使い方やケアの方法を見直す良い機会となりました。また、技術的な事だけでなく、相手への伝え方についてもチェックしていただき勉強になりました。技術認定チェックは良い取り組みだと思います。(理学療法士)

### 第3回目の技術認定に向けた研修会が6月9日(日)よりスタート

次回の認定試験は2020年3月21日・22日に予定。尚、その際には、他県からの挑戦者も受験します。

第3回技術認定に向けた研修会受講者  
29名の受講者の職種



## 親の介護が始まってうれしかったことや気づいたこと



### ～患者家族の声～

患者家族 G より



今年、我が家は数種類の夏野菜を栽培しています。きゅうり、なすび、ピーマン、オクラ、トマト、ゴーヤなどなどです。主にお世話をしているのは相方である配偶者ですが、私自身もせっせと水やりをしたり収穫をしたりして栽培の楽しみを味わっています。

なぜこのようなイントロで患者家族の声を書き始めたのか。野菜の栽培をやってみようと思える自分に気づきうれしかったからです。数年前ある日、突然、患者家族になりパニック状態だった私は、季節のうつり代わりにも気づけずただただ両親の看病や介護にかけずりまわっていました。そんな私はあれやこれや病院や施設のスタッフ行為に不満を感じて注文をつけてばかりでした。求めているようなケアをしてもらえないもどかしさや、時に発せられる苛立ったスタッフの言葉に凹んだことも否めません。

すると、不思議なもので私はそういった厳しいスタッフばかりに気を取られてしまい、まるで全てのスタッフが雑なケアをしていたり患者やその家族に厳しい発言をしているかのようにとらわれていました。いつの間にかそのスタッフばかりに目が行くようになり、いつもイライラしていました。私がおかれている状況は負のスパイラルにはまったように、いつも不満や苛立ち憤りの感情がこみ上げてきていました。

以前、どなたかの講演会で「人は何か気がなってしまうとそのことばかりに気がとらわれてしまい、それ以外の良い行動を見落としがちになる。」という内容の言葉を思い出しました。「そっか！そこばかりに目を向けずに、自分に笑顔を向けてくれる人、自分が親しみやすい人に気持ちを向けてその人とコミュニケーションを積極的にとるようにしたらいいんだ！」と気づきました。私が必要としている用件は、厳しかったりそりが合わなかったりするスタッフさんを通さなくても解決できるものばかりでした。なぜ、わざわざきついことに身を置きそこに縛られてしまっていたのだろうと、いま思うと可笑しくなります。

関係性の負のスパイラルから抜け出せると、不思議なことに厳しい人だと思っていたスタッフさんの優しい一面に気づくことができるようにもなりました。

例えば、口は悪く大きな声で患者に対して雑な話し方をしているけれど、よくよく話を聞いてみると田植えの季節には田植えの苦労などを持ち出して、相手に伝わりやすい内容の話題を持ち出していました。「ああ、

この方は一見、接し方は雑で激しく感じさせられるけれど芯は優しい人なのだろうな」と気づかされました。

一方で、雑な接し方を上司からはその場ですぐに、厳しく注意されていました。「注意されているけれど、この人、根は優しいんだよねえ。表現方法がいまひとつ下手なんだよなあ」と、思いました。上司とのやり取りを客観的に観察させてもらえたから気づけた一コマでした。

そして同時にそれまでの私の気持ちの持ちように気づかされたのです。私はスタッフさんの動きの一面だけを見て嫌悪感を抱いていたのです。患者家族になり月日が積み重ねられたことで少し心のゆとりができてきたのかもしれない。

他にも気づかせられたことがあります。心にゆとりが持てない頃の私は、病院や施設のスタッフを見た時、その方たちの家族のことを想像することができませんでした。テキパキと動き、時には厳しい言葉を発するスタッフには何も困っていることや悩んでいることがないように思っていました。そんなことはないですよ。当然ですが、皆さんには私生活があり、そこには家族がおいでです。高齢の親を介護している人も少なくありませんでした。ご自身の親がうちの親と同じような症状で入院している方もおられました。「心配だけどそうは、言っておられないからですね。働いている時はコチラに集中できるからいいですよ。」と言っている姿にさすが専門家だなあと思わせられました。私の仕事は看護や介護関係ではないので、働いている時に自分の親の姿が仕事内容に重ね合わせられて思い出すことはあまりありません。しかし、スタッフの方たちは、自分の親の姿と患者や入所者の姿が重ね合わせられてしまうことが少なくないのだろうなと思いました。仕事とはいえ、目の前の他人をケアするよりも自分の親にも同じようなことをしてあげたいとか思って葛藤が生じないのだろうかとか前から気になっていました。まだ誰にも聞いていません。

親を介護中の病院や施設のスタッフの皆さん。ご苦労様です。私は、必死になりすぎてあれやこれや求めすぎてしまう患者家族ですが、すこしずつ成長できているように思います。皆さんの周囲の患者家族もきっと皆さんの頑張りに育てられているのだろうなと思う今日この頃です。

## 事務局だより

### ＜31年4月から令和元年7月までの事務局のうごき＞

#### 平成31年3月追加

- 3月14日 事例相談
- 3月20日 企業訪問2件
- 3月25日 開発相談 2件

#### 平成31年4月

##### 決算業務・技術認定チェック講演会準備

- 4月4日 開発会議
- 4月5日 税務相談
- 4月8日 開発相談
- 4月9日 開発相談
- 4月11日 ホームページ更新準備
- 4月13日 『抱え上げない介護技術』補習⑩  
理事会
- 4月14日 『抱え上げない介護技術』補習⑪
- 4月16日 開発相談
- 4月18日～19日 大阪バリアフリー展
- 4月18日 開発相談
- 4月23日・24日 開発相談
- 4月25日 福祉用具研究会
- 4月27日 会場設営と補習研修⑫
- 4月28日 下元佳子氏特別講演 10時～12時
- 4月28日 技術認定チェック 13時～20時  
懇親会
- 4月29日 技術認定チェック 9時～16時
- 4月30日 研修会の総括 アンケート公開

#### 令和元年5月

##### 総会準備

- 5月2日 合格証明書発行 郵送準備
- 5月3日 合格証明書発送
- 5月6日 会計監査準備
- 5月7日 研修会借用機材返却  
開発相談
- 5月8日 開発相談
- 5月9日 開発相談
- 5月10日 税務相談 ホームページ更新
- 5月13日 開発相談 企業訪問2件
- 5月14日 税務相談
- 5月15日 会計監査
- 5月16日 施設訪問 ヒヤリング
- 5月17日 開発相談
- 5月18日 開発相談
- 5月21日 企業相談 福岡
- 5月22日 開発相談
- 5月23日 福祉用具研究会 開発相談
- 5月25日 通常総会 14時～15時20分
- 5月26日 キネステ体験講座 10時～12時30分

##### ホームページへ事業報告・貸借対照表公開

- 5月27日 開発相談2件
- 5月28日・29日 開発相談  
NPOセンター報告書類提出
- 5月29日 会員に事業報告・決算報告メール送信
- 5月30日 きのコグリップテレビ取材

#### 令和元年6月

- 6月4日 開発相談
- 6月5日 開発相談
- 6月9日 技術研修会 第1ステップ 1回目
- 6月10日 開発支援
- 6月16日 リーダーシップとコミュニケーション  
研修会
- 6月21日 第3回 福祉用具研究会

##### 情報誌ささえ68号 編集・校正・印刷・発送

##### ＜今後の予定7月から9月まで＞

##### 7月情報誌ささえ68号発行・発送

- 7月7日 技術研修会 第1ステップ 2回目
- 7月20日 キネステティクス®研修会  
ベーシック・アドバンスコース 1日目
- 8月3日 技術認定チェック再試験
- 8月4日 技術研修会 第1ステップ 3回目
- 8月17日・18日 キネステティクス®研修会  
ベーシック・アドバンスコース2・3日目
- 9月8日 技術研修会 第1ステップ 4回目
- 9月25日・26日・27日 東京国際福祉機器展  
情報誌ささえ69号発行準備

### 2019年度通常総会のご報告

日時 2019年5月25日14時～15時20分

会場 福岡県立大学附属研究所中セミナー室

会員数132名中、委任状及び出席者数は103名

#### ◆審議事項

2018年度 事業報告・決算報告・監査報告

2019年度 事業計画案・予算案

すべて承認をしていただきました。

